

2018 年度第 1 回「社会人基礎力」育成ワークショップ報告書

「人生 100 年時代の社会人基礎力を考える」

～産学公連携で「リカレント教育」実現しよう～

(2018 年 10 月 5 日開催)

一般社団法人 社会人基礎力協議会

1. 「社会人基礎力」育成ワークショップの趣旨と目的

『「社会人基礎力」育成ワークショップ：産官学連携によるリカレント教育の実現』を開催し、現役世代の戦力化と生涯活躍世代の活性化のための「リカレント教育」について興味を持つ参加者と交流し、また話し合うことで、相互で啓発することを目的としています。

2. ワークショップの開催日時及び会場

【日時】 2018年10月5日（金）14：15～16：30

【場所】 拓殖大学文京キャンパス（E809）

〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14

【交通】 東京メトロ 丸ノ内線「茗荷谷駅」下車 徒歩3分

【参加費】 無料

3. ワークショップのテーマ

「人生100年時代の社会人基礎力を考える」～産学公連携で「リカレント教育」実現しよう～

4. 参加者の状況

大学関係者 11名 企業関係者 16名 計 27名（敬称略）

【大学】

学校名	氏名	所属・部署名	役職名
大阪大学	齊藤 貴浩	経営企画オフィス	教授
四条畷学園大学	佐藤 都也子	実践教育研究センター（仮称）準備室	準備室長
静岡大学	宇賀田 栄次	学生支援センター	准教授
成蹊大学	山崎 紅	経済学部	非常勤講師
東京家政学院大学	金森 敏	現代生活学部	准教授
拓殖大学	酒井 由起子		
	長谷川 里江子	就職課	
東洋英和女学院大学	町田 小織	国際社会学部国際社会学科	専任講師
日本大学	岡田 昌樹	生産工学部 応用分子化学科	准教授
一橋大学	深澤 一弘	森有礼高等教育国際流動化機構	科研費技術員
明治大学	稲垣 久美子	政治経済学部	特任准教授

【企業】

企業名	氏名	所属・部署名	役職名
(株)エム・ソフト (HR 西雇用管理研究所 代表)	西 秀樹	人事総務部	顧問
(株)エンベックスエデュケーション	磯ヶ谷 尚樹	エンジニアリングサービス事業部	シニアマネージャー

(株)学情	平田 健一	企画部	課長代理
キャプラン(株)	臼井 秀光	J プレゼンスアカデミー事業 本部 研修ソリューション第 2 営業部	
キャリアコミュニケーションズ	森 一美		代表
キャリアフラッグ(株)	熊澤 匠		
(株)コトブキホームステーション	林 功太郎		代表取締役社長
NPO法人セルフ・カウンセリング 普及協会	吉田 みどり		理事
(一社) Learn for Life	小林 秀行		アジア代表
(株)Trust Cooperation	別府 信太郎		代表取締役
(有)トラストフレックス	兼子 朋子		
日本事務器(株)	紫村 文佳	営業本部 文教ソリューション 販売事業部	
(一社) ビジネス心理研究所	仁木 良一		代表理事
(株)ビズリーチ	野川 真生	新卒事業部	
	佐瀬 勇樹	新卒事業部	
(株)リガーレジャパン	野田 岬	IT 制作事業部	

取材			
日経 HR	渡辺 茂晃	コンテンツ事業部	

5. 当日のスケジュール

時間	実施内容
14:15	経済産業省 浅野優子様ご挨拶
14:30	村山代表理事挨拶
14:45	芝原リカレント委員長講義
15:15	ワークショップ ・5グループ(A~E)に分け討議 テーマ(各グループが自由に選択) A、「社会人基礎力」の認知度判定。現状の課題と今後の取組み方の提言 B；{人生100年時代}に対する企業の取組み方と個人(社員)の課題について C；「リカレント教育」プログラムの企画提案と具体的実行プランの検討 D：社団法人化した協議会への期待と皆様&企業の関わり方への提案 E；その他自由テーマでの意見交換
16:15	各グループの発表および講評
16:30	事務局よりお知らせ後に解散

※司会進行：石田龍夫(専修大学エクステンションセンター事務部長)

6. 議論のまとめ

各グループの発表は以下のとおりである。

チーム・テーマ	発表内容
<p>A チーム テーマ：A 「社会人基礎力」の認知度判定。現状の課題と今後の取組み方の提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知度を上げるためには、社会人基礎力を伸ばすという目的意識を持たせる必要がある。では、どうすれば目的意識を持たせられるか討議した結果、「〇〇になりたいので〇〇をするという目的意識は、小学生で止まってしまうのではないか。中学や高校から、受験・合格という目的がゴールになってしまい、社会人になるために何かするという目的意識が無くなっている」という結論に至った。 ・ 社会人基礎力の気づきをどうするかを討議した結果、インターンなどで、居場所と出番を用意する、色々な業務を経験させる、副業を経験させる、会社同士で出向し合う、とった意見があった。ある企業では、家庭で父親が子供にキャリアを語るということを実施しているという説明があった。
<p>B チーム テーマ：B {人生100年時代}に対する企業の取組み方と個人(社員)の課題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生は、自分なりのOSや考え方に基づいて行動しており、それをどこで手にいれ、どう活用しているかを理解した上で、学生を支えてあげる必要がある。つまり、大人が良いという社会人基礎力というOSは、そのまま素直に学生に受け入れられないのではないかと。従って、早い段階から社会人基礎力を認知させ、大学であれば1年生のうちに、社会人基礎力や社会で活躍する目的を自覚させることが重要である。 ・ 大学やインターンシップ先で使用している社会人基礎力の伸長のチェックは自己採点である。また、成績や単位に反映されるため、正しい評価になっていないと思う。従って、社会人基礎力の評価は、教員、学生、親など多くの関係者による360度の評価を提案する。また、リカレント教育の評価も同様に、上司だけではなく、同僚や後輩、人事、取引先など多くの関係者から360度の評価をしてはどうか。この評価方法により、学生から社会人、シニア世代も継続的なOSのチェックができると思う。
<p>C チーム テーマ：E その他自由テーマでの意見交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人基礎力と現場とのギャップを感じている。例えば、中小企業に高卒で就職する人は、社会人基礎力をそもそも知らない。リカレントといってもわからないのではないかと。 ・ 社会人基礎力を否定するわけではないが、発達障がい者などの人々にとってはハードルが高く、社会から排除されているように感じるのではないかと。
<p>D チーム テーマ：A 「社会人基礎力」の認知度判定。現状の課題と今後の取組み方の提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生への就職アドバイスの際に、社会人基礎力を推奨しているが、ほとんど認知されていない、説明すると思い出す学生がいるレベルである。 ・ 日本大学は社会人基礎力の講義を外部企業に依頼し実施している。 ・ 認知度はあるが、就職活動や自己PRに活かすなどの、実際の活用がなされていない(活用度合いが低い)と思う。 ・ 発達障がい者が10%位いるといわれているので、一律に社会人基礎力を

	<p>指導することに無理があるのでないか。従って、個別に見極めて、指導する必要があると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生から、社会人基礎力を学ばせた方がよいと思う。
<p>E チーム テーマ：C 「リカレント教育」プログラムの 企画提案と具体的 実行プランの検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントツールについて話し合った結果、大学では PROG を使っているところが多いが、主観的な評価なのであまり信用できない。また、社会人基礎力は学生にとって、恐ろしい、わかり難い、とっつき難いのではないか。EQ を使っているが、こちらの方が学生にわかりやすいと思う。 ・リカレント教育について話し合った結果、小学生から社会人まで繋がっていないので、それを繋ぐリカレントアドバイザーがいたら良い。 ・チームで働く力とあるが、個人の能力を測っていくことを考えるのであれば、企業で働くことを前提としているイメージに違和感がある。 ・企業が求める力となっているが、そもそも現在の企業は劣化していて、企業の求めることばかりを聞くのは良くないのではないか ・そもそも社会人基礎力を、なぜやっているのか？2006 年に提唱されたが、ニートの問題がある中で考えられたことで、今もそこから抜けきれていないのではないように思う。 ・人生 100 年時代といっても認知している人が少ない。企業が採用するためにやっていくのか、個人が 100 年時代を生き抜くために自己の能力を測るためにやっていくのか、社会として、それをどう支えていくのか、はっきりしていない。 ・小学生のあゆみ（成績表）の行動特性欄に、12 の項目を反映させると一貫性がでるのではないか。 ・社会人基礎力は、日本の企業を前提としており、グローバル企業に適さないのではないか。

参加者アンケート結果報告書

ワークショップ参加者より収集いたしましたアンケート結果をご報告いたします。

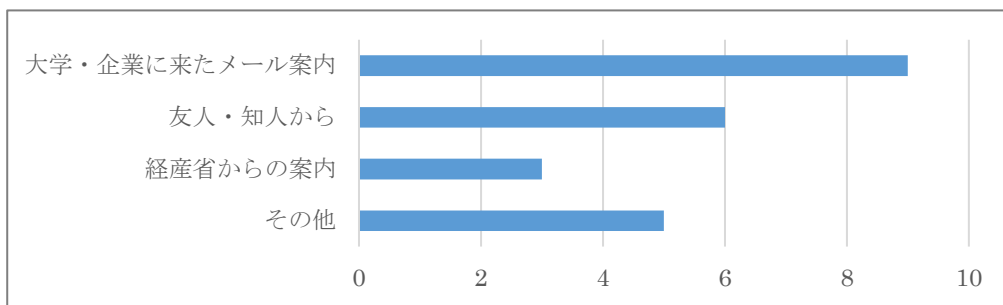
1. アンケート回収状況

参加者数 27 名 回収 23 名 回収率 85% (大学関係者 9 名・39%、企業 14 名・61%)

2. アンケート回答

(1) 今回のワークショップ参加の理由は

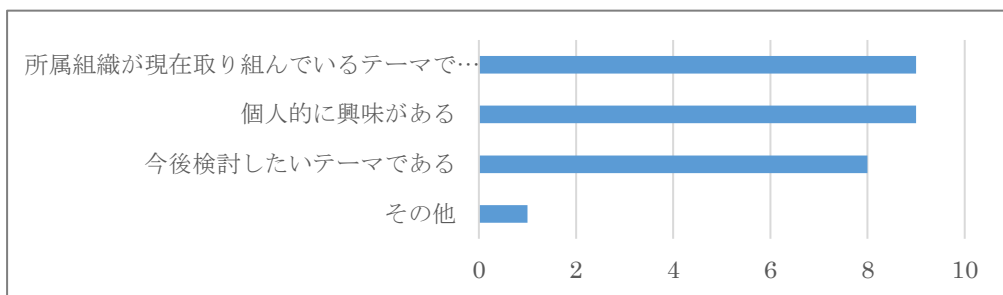
① 今回の「ワークショップ」は何で知られましたか？



【その他】

- ・ ASAGAO メーリングリストで知った 2 名
- ・ 個人的に届いたメールで知った 2 名

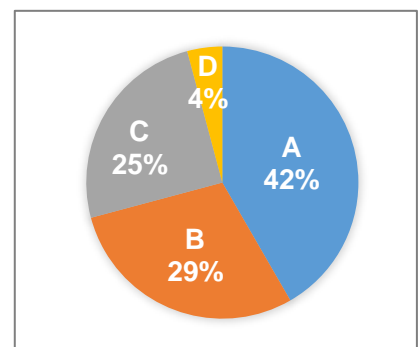
② 参加の理由



(2) 「社会人基礎力」の認知度とその評価について

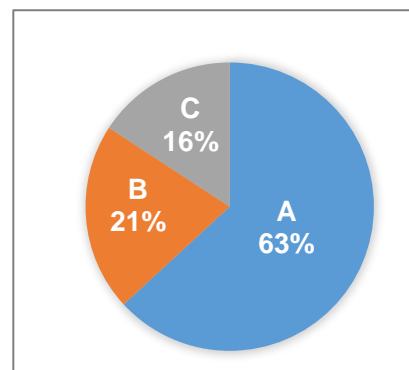
① 「社会人基礎力」認知度

A	現在大学・企業内で採用し取り組んでいる	10
B	良く知っている	7
C	言葉は聞いたことがある	6
D	良く知らない	1



② 「社会人基礎力」評価

A	活用は出来る	10
B	人材力強化能力として評価する	7
C	あまり評価できない	6



【あまり評価できない理由】

- ・評価ツールが必要だが、まだ十分ではないと思う。
- ・本日のディスカッションでも挙げられたが、万人に求めるのは酷であるケースがある（発達障がいの方など）、など課題は多いと思います。
- ・利用イメージがまだない

(3) 一般社団法人 社会人基礎力協議会に期待すること (回答 11 件)

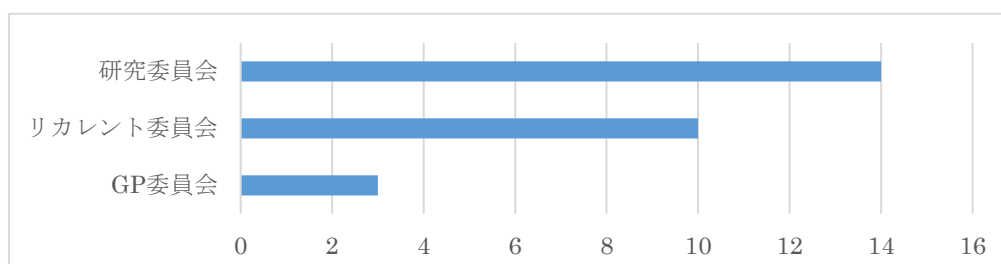
- ・社会人基礎力の再構築、ビジョン作り、アセスメントの活用、グランプリを産学の取り組みにしたいですね。(大学関係者)
- ・告知・PRをもっと活発にしていきたい。(大学関係者)
- ・今後も今回のような機会をご提供いただけたらと思います。活用のアイデア等も情報提供していただきたいです。(大学関係者)
- ・社会人基礎力以前の問題（生きる力がない、生活をするのに精一杯等）をどうするか？何のための社会人基礎力かを考える上でも不可避のテーマだと思うので。(大学関係者)
- ・研究部門の発展を期待します。(大学関係者)
- ・アセスメントを期待しております。(企業)
- ・広報に力を入れて認知度を高めていただきたい。(企業)
- ・有識者との交流の場 (企業)
- ・人と社会の関係を深く掘り下げる研究など期待しています。(企業)
- ・アセスメント・研修、認証 (企業)
- ・若い人が自分をふり返った時にもっと利用出来るものになって欲しい。(企業)

(4) 今後の協議会活動にご参加いただけますか

① 勉強会・セミナー会等のイベントに参加する

参加する 22 名、参加しない 0 名、無回答 1 名

③ 興味があり、参加したい委員会は・・・(複数回答可)



(5) その他ご意見・ご提案等自由にお聞かせください。

- ・本日はありがとうございました。こうした機会があればぜひお声かけくださいませ。ご参考までに、後日「求められる人材になるための社会人基礎力講座（日経BP）」長尾先生宛にお送りいたします。（大学関係者）
- ・大変貴重な機会でした。誠にありがとうございました。（大学関係者）
- ・貴重な機会を提供いただきありがとうございました。（大学関係者）
- ・本日はありがとうございました。（企業）
- ・ありがとうございました。今後もぜひよろしくお願いいたします。（企業）
- ・引き続きよろしくお願い致します。（企業）
- ・キャリア教育をされておりどのように取り入れるか？考えるいい機会になった。今後ともこのような会を継続して下さい。（企業）
- ・いつもありがとうございます。（企業）
- ・人が生き生きするために生かすことはむずかしいのだなあーと思いました。考えてゆきたいと思いました。（企業）
- ・ありがとうございました！！（企業）
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。（企業）
- ・「アセスメントに興味あります。開発していました。」→（4）に付記（企業）

以上

<ワークショップの様子>



參考資料